

# 令和6年度 横浜市政に関する要望の回答

## (神奈川区・港北区)

### 【神奈川区】

#### (1) 臨港幹線道路の早期完成

##### 【回答】

臨港幹線道路については、臨海部の道路ネットワークを構築するために重要な道路と考えています。

新港ふ頭～山下ふ頭～本牧ふ頭間の臨港幹線道路については、山下ふ頭再開発に向けて交通の円滑化を図るため、引き続き整備促進を国へ働きかけていきます。

#### (2) 横浜上麻生線の早期着工

##### 【回答】

都市計画道路横浜上麻生線の未着手区間の着手時期については、国の予算や他の事業中路線の進捗状況を見ながら検討していきます。

#### (3) 神奈川お台場の保存・活用に向けた助成

##### 【回答】

神奈川台場については、「横浜市の近代遺跡及び近代建造物の保護に関する要綱」に基づき、「周知の埋蔵文化財包蔵地」として取り扱っており、開発工事等を行う場合は、「文化財保護法」等に基づく、事前の届出が義務付けられています。事業者からの届出を受け、工事によって現状保存できない埋蔵文化財については、「文化財保護法」に基づき、事業者と保存に関する協議を行っていきます。

本市の開港の歴史的な遺構である神奈川台場については、「東高島駅北地区開発事業」の進捗にあわせて調査を実施しており、その内容を踏まえ、保存・活用方法などを民間事業者と共に検討していきます。

また、本市における神奈川台場の保存活用については、これまで、神奈川台場の遺構の一部が埋もれている神奈川台場公園について、当時の石積みを再現するなどの再整備を行うとともに、台場の歴史を紹介するパネルを公園内に設置したほか、横浜市中心卸売市場内に現存する石積みまでの歩行者用通路の整備を行ってきました。

神奈川区役所の広報印刷物である「神奈川宿歴史の道」、「かながわ歴史亀さんぼ」、「わ

が町かながわとっておき」散歩ガイド」に加え、関連部署が連携して作成した「横浜旧東海道みち散歩リーフレット」においても神奈川台場について紹介しています。

今後も引き続き、イベント等を活用し神奈川台場に関するPRに努めていきます。

(4) 「かながわ物産館(仮称)」の開設支援に伴う中央卸売市場や近隣商業施設、商店街等と連携した販わい創出促進

【回答】

市有地であるポートサイド地区C4街区(旧横浜シティエアターミナル敷地)において、「神奈川区をはじめとする市内の物産を活用した取組」を条件に、「学校法人ホライゾン学園」と定期借地契約し、当該学園は平成31年4月に開校しました。

令和6年度も引き続き、横浜市中心卸売市場本場では、市場事業者で構成される団体が主催者となり、市場の食材を活用した「食」をテーマとするマルシェ等のイベントを開催し、販わい創出に取り組みます。

今後も、神奈川区をはじめとする市内の物産を活用した取組の推進に努めていきます。

(5) 神奈川東部方面線の整備に合わせた「羽沢駅周辺まちづくりガイドライン」策定による早期開発整備促進

【回答】

羽沢横浜国大駅周辺については、神奈川東部方面線の整備に合わせたまちづくりを推進するため、「羽沢駅周辺まちづくりガイドライン」を策定し、「豊かな自然と身近に触れ合うことができ、生活の利便性に優れ、環境に優しく、安全で安心して暮らせるまち」の形成を図ることとしています。

羽沢横浜国大駅前では、令和6年1月に土地区画整理事業の終了認可公告が行われ、コミュニティプロムナードの利用が始まりました。

また、令和6年秋頃に商業、医療、子育て支援、農業や大学活動支援等を含めた複合施設「H A Z Z A R (ハザール)」が開業することで生活利便性の向上等が見込まれます。

今後も、羽沢横浜国大駅周辺においては、令和5年3月開通した相鉄・東急直通線や周辺インフラの整備状況を踏まえながら、豊かな自然環境とバランスの取れた適切な土地利用誘導を図っていきます。

(6) 東高島駅北地区の早期整備

【回答】

東高島駅北地区は、都市基盤の整備が遅れているため、本市による水域の埋立てと組合施行に

よる土地区画整理事業を一体的に行い、道路や公園などの都市基盤整備とともに、医療・健康増進施設、商業施設、都市型住宅など、都心にふさわしい良好な複合市街地の形成を図ることとしています。

令和6年度も引き続き、当地区の早期整備に向けて、基盤整備や水域の埋立てを進めていきます。

#### (7) 区内観光資源を活用した国内外観光客の誘致支援

##### 【回答】

神奈川区では、自然・文化・歴史・暮らし・産業など、有形・無形を問わず様々な分野から、選りすぐりの魅力資源を「わが町 かながわ とっておき」に認定しており、民間事業者・区民活動団体等で組織する実行委員会を中心に、散歩ガイドの発行や魅力発信イベント及び写真コンテスト等を実施しています。

また、神奈川区の歴史資産である「東海道神奈川宿」と「浦島伝説」を、「わが町 かながわ とっておき」に認定し、「神奈川宿歴史の道」パンフレットや「かながわ歴史 亀さんぼ」マップを発行して紹介しています。

今後も、散歩ガイドなどとあわせ、昨年度新たに開設したウェブページの活用を進めるとともに、民間事業者・区民活動団体等と協力して神奈川区の魅力発信に取り組んでいきます。

なお、市内の観光資源については、ウェブサイト「横浜観光情報」やSNSなどを通じて、国内外に向けて広く情報発信を行っています。

引き続き、市内の魅力的な観光資源を活用して、事業者の皆様や関係局が連携しながら魅力を発信し、誘客につなげていきます。

## 【港北区】

### (1) 新綱島駅周辺地区の早期整備

#### 【回答】

令和5年3月の新綱島駅開業後、令和5年10月に再開発ビルが竣工し、12月には新綱島駅上部にバス乗降場を含む新しい道路が開通しました。これにより、東急東横線綱島駅に集中していたバスの半数（約400台）を新綱島駅に移設したことで、綱島駅東口前の歩行者の安全性が向上し、周辺道路の混雑緩和を図ることができました。

さらに、令和6年1月には新綱島駅隣接地に地下機械式自転車駐車場の供用も開始しました。

今後は、土地区画整理事業の事業完了に向け、引き続き道路や雨水調整池などの公共施設の整備を進めていきます。

## (2) 菊名駅周辺地区の早期整備

### 【回答】

菊名駅周辺では、まちづくりの実現にむけ、地権者の皆様などによる「まちづくり協議会」が活動しています。本市としては、引き続き「まちづくり協議会」に対し、コーディネーター派遣等の支援を行うとともに、まちづくりの事業手法や内容、段階に応じて、必要な支援を行ってまいります。

## (3) 新横浜篠原口周辺地区の早期整備

### 【回答】

JR新横浜駅篠原口周辺では、地権者有志の方々が「市街地再開発準備組合」を結成し、計画検討や関係機関協議などを行っています。本市は、再開発の実現に向け、「市街地再開発準備組合」の活動支援を行うとともに、再開発と合わせて駅アクセス道路や地域の交通課題を改善する道路の整備などの方向性を示した「新横浜駅篠原口のまちづくり計画（案）」を公表しました。

現在は地域の方々から頂いた意見を踏まえながら、市道菊名第70号線の道路拡幅など、周辺の道路の検討を進めています。

## (4) 新横浜周辺の早期無電柱化の推進

### 【回答】

無電柱化については、防災力の向上の観点から、災害時の救援活動や応急復旧を速やかに展開できるよう、第1次緊急輸送路や災害時に拠点として機能する区役所へのアクセス路等の整備を重点的に進めています。

## (5) 地域ブランドの積極的な活用

### 【回答】

港北区では、区民まつりや区外で行う展示会への出展、商店街と連携したイベントや港北区の魅力を伝える動画のコンテストの実施等により、「港北ブランド」をPRし、港北区民の地域への愛着を醸成するとともに、区外の多くの人に港北区を知ってもらうきっかけとします。

## (6) 宮内新横浜線の早期整備

### 【回答】

都市計画道路宮内新横浜線の未着手区間の整備については、国の予算や他の事業中路線の進捗状況を見ながら検討していきます。

(7) 区内観光資源を活用した国内外観光客の誘致支援

【回答】

港北区は、「横浜国際総合競技場（日産スタジアム）」「横浜アリーナ」等の大規模集客施設に加え、「大倉山記念館」、「大倉山梅園」、「小机城址」等多くの歴史的・文化的資産も有しています。

また、継続的に開催している花と緑のイベントは多くの方に親しまれています。

昨年3月には相鉄・東急直通線が開通し、横浜市西部、東京都心部への所要時間が短縮されたことにより、新幹線へのアクセスが向上し「2027年国際園芸博覧会」会場への陸の玄関口になることも期待されます。こうした資源や好機を活かし、港北区の魅力を内外に発信し、観光客の誘致に繋げられるよう関係各所と連携して取り組んでいきます。

なお、市内の観光資源については、ウェブサイト「横浜観光情報」やSNSなどを通じて、国内外に向けて広く情報発信を行っています。

引き続き、市内の魅力的な観光資源を活用して、事業者の皆様や関係局が連携しながら魅力を発信し、誘客につなげていきます。